

## 食品流通・包装懇話会のご案内

### 食品流通・包装懇話会2022年度予定

講演会はWebによるリモート開催の予定です。

例会	第174回	第175回	第176回	第177回
活動	講演会	講演会	講演会	講演会
日時	2022. 7. 14 午後	2022. 9. 29 午後	2022. 12. 7 午後	2023. 1. 26 午後

### 食品流通・包装懇話会2021年度実績

#### 第170回 懇話会講演

講演日 : 2021年7月14日(水) Web開催、1講演当たり開催時間80分(講演・質疑)

テーマ1 : 「バイオマス推進の社会的意義、生分解性とバイオマス、バイオプラスチックの動向並びに技術開発、その留意点等について」

講師 : 一般社団法人日本有機資源協会 副会長 北海道大学 名誉教授 木村 俊範氏

概要 : 世界の環境意識は、温室効果ガス削減のような単なる環境問題に留まらず、生物圏との共生にまで踏み込んだ非常に複雑かつ大きな課題となっているが、我が国の対応は乗り遅れが目立つ。2016年の地球温暖化対策計画においてバイオマスプラスチック導入による削減目標が設定され、達成のためのロードマップ制定や関連法規との調整が各所で進行している。これらの流れの影響を大きく受ける食品包装をめぐる諸課題について説明を受けた。

テーマ2 : 「耐油耐水紙・食品包材に関連した粘着ラベル材料」

講師 : リンテック株式会社 洋紙事業部門 東京洋紙営業部 小野 智則氏

技術・開発室 営業技術グループ 楠田 光陽氏

概要 : 耐油耐水紙は、油や水を浸透させないもしくは染み出しにくい性質を特徴とした機能紙であり、多くはファストフードやコンビニエンスストアなどのホットスナック、テイクアウト類の食品用包材や、食品を加工・成型する際の敷き紙・カップといった食品容器として用いられている。これら様々な耐油耐水紙とともに、食品容器や包装材に貼付するラベル材の最新動向についても紹介を受けた。

#### 第171回 懇話会講演

講演日 : 2021年9月9日(木) Web開催、1講演当たり開催時間80分(講演・質疑)

テーマ1 : 「プラスチック資源循環促進法について」

講師 : 経済産業省 産業技術環境局 資源循環経済課 様

概要 : 我が国におけるプラスチックの資源循環の更なる体制強化が求められているが、

2019年5月に策定した「プラスチック資源循環戦略」を踏まえ、多様な物品の素材として使用されるプラスチックに着目して、製品の設計・製造段階から廃棄物の処理段階に至るまでのライフサイクルを通じて、プラスチック資源循環の取組を促進するために「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案」が2021年6月に成立・公布された。このプラスチック資源循環促進法で講じる措置とは何かを中心に解説を受けた。

テーマ2：「プラスチックのケミカルリサイクルの動向とバイオプラスチックの位置付け」

講師 東北大学大学院環境科学研究科 教授 吉岡 敏明氏

概要： 日本国内でのプラスチック資源の有効活用については、一定の水準に達しているものの、未利用の廃プラスチックが一定程度あることから、これまで以上に国内資源循環が求められている。一方、中国に端を発した廃プラスチックの輸入規制によって廃プラスチックリサイクルフローの新たな確保が喫緊の課題となっている。このような中、新しい廃プラスチックの資源循環ルートの確保が望まれ、とりわけ、プラスチックのケミカルリサイクルへの期待が拡大している。ケミカルリサイクルに関する技術動向とともに、バイオプラスチックとの付き合い方についても紹介を受けた。

## 第172回 懇話会講演

講演日：2021年11月11日（木）Web開催、1講演当たり開催時間80分（講演・質疑）

テーマ1：「コロナ禍における海外のパッケージング動向」

講師：株式会社パッケージング・ストラテジー・ジャパン取締役社長 森 泰正氏

概要： 2020年初頭からのコロナ禍を受け、感染予防の防具や消毒・除菌剤のパッケージなどプラスチック製品が急増した。一方、2021年は世界が廃棄物削減に軸足を移しプラスチックに対する法規制が欧米で強化され、持続可能性やサーキュラーエコノミーを重視するパッケージへの関心が、以前にも増して高まってきている。2021年に登場したパッケージ（モノマテリアルパウチ、紙や金属への素材シフト）のレビューとともに、2022年の欧米のパッケージを展望について紹介を受けた。

テーマ2：「食品事業者に求められるプラスチック資源循環対策」

講師：農林水産省大臣官房新事業・食品産業部外食・食文化課食品ロス・リサイクル対策室 室長 森 幸子 氏

概要： プラスチック問題について、農林水産省では、食品産業における自主的な取組を促すため、各企業・業界団体に対して「プラスチック資源循環アクション宣言」の募集を行ってきた他、3Rに取り組む事業者の食品容器包装に関する事例集の作成・公表などを行ってきた。2021年6月には、プラスチック資源循環促進法が成立・公布され、2022年4月の施行を目指し、政省令告示の検討が行われている。同法に関連する食品事業者に求められる対応について講演を受けた。

## 第173回 懇話会講演

講演日：2022年1月27日（木）Web開催、1講演当たり開催時間80分（講演・質疑）

テーマ1：「つくる責任・つかう責任：容器包装を減らす減装（へらそう）ショッピング」

講師：特定非営利活動法人ごみじゃぱん 理事 小島 理沙氏

要 旨： 減装（へらそう）ショッピングは、SDG's 12 番のつくる責任・つかう責任のテーマに関連し、2007 年からおよそ 10 年間にわたって、神戸大学の学生を中心とした NPO ごみじゃぱんが、容器包装の発生抑制を目指して様々な形で実施してきた社会実験・社会実装の取り組みである。この活動を通して、容器包装をいかに減らすか、メーカー、小売り、行政を巻き込んだ連携型の実証実験について紹介を受けた。

テーマ 2： 「ポジティブリスト制度の最近の動向と食品接触材料安全センターの活動について」

講 師： 一般財団法人化学研究評価機構 食品接触材料安全センター 企画調整室長  
梶原 健世氏

要 旨： 食品用器具及び容器包装において、2018年6月の改正食品衛生法でポジティブリスト管理への移行が示され、2020年6月に合成樹脂製の器具及び容器包装について施行された。現在は2025年5月末までの経過措置期間で、完全施行に向けて、制度運用上の課題の解決に向けて検討が進んでいる。ポジティブリスト制度に関する最新情報とともに、関係事業者が留意すべき点について説明を受けた。

### 参考：食品流通・包装懇話会 2020年度活動

例会	開催日時	概要
167 回	2020 年 8 月 27 日(木曜日)	①「PET ボトルリサイクルの現状と課題」 PET ボトルリサイクル推進協議会専務理事 秋野 卓也氏 ②「サーキュラー・エコノミーの取組状況」について ヴェオリア・ジャパン株式会社 サークュラー・エコノミー事業開発本部 宮川 英樹 氏
168 回	2020 年 10 月 16 日(金曜日)	①「世界における食品包装規制の最新動向」 西包装専士事務所 代表 西 秀樹氏 ②「改正食品衛生法 ポジティブリスト制度」 一般財団法人 化学研究評価機構 食品接触材料安全センター 参事 梶原 健世氏
166 回 代替開催	2020 年 12 月 9 日(水曜日)	①「コロナ禍でも止めない商品開発」 株式会社 プラグ 代表取締役社長 小川 亮 氏 ②「細胞培養による食料生産とその先」 インテグリカルチャー株式会社代表取締役 羽生 雄毅氏
169 回	2021 年 1 月 22 日(金曜日)	①「使い捨てプラスチックを確実に半減できる紙パウダー51%入り複合素材」 株式会社環境経営総合研究所代表 松下 敬通氏 ②「パッケージ素材としての紙の可能性と日本製紙の開発事例」 日本製紙株式会社 パッケージング・コミュニケーションセンター 技術調査役 野田 貴治氏